

大きなサツマイモの収穫ができました。



おひやり

No.300

平成 29 年 12 月 10 日発行
社会福祉法人円福会
円福寺愛育園
園長 青谷幸治

お弁当

理事長 藤本光世

11 月 22 日に小学校低学年のスケート教室がありました。

朝食後の食堂の子どもたちが何やら嬉しそうに何かを見せ合っています。スケート教室はお弁当持ちで、調理の先生が子どもたちが喜びそうで美味しいキャラ弁を作ってくれたのでした。女の子はキティちゃん、男の子はドラえもんキャラ弁です。子どもたちは見せ合って、そして私に見てほしいと呼んで喜んでいました。



てあげたいと言っていました。昨年度は、朝練習で毎朝早く食事をする野球部の子がいました。その子に、温かい手作りのお味噌汁と朝食を食べさせたいと、調理の先生は 4 時ころには出勤して朝食を作ってくれたのです。

子どもたちを育てる仕事の内容は異なるのですが、職員の心が一緒に、同じ方向を向いて仕事をしてくださっている調理の先生方の思いが伝わってきました。

子どもたちは、嬉しくて学校の先生やお友達にお弁当を見せたことでしょう。

日ごろ調理の先生は、自分たちが子どもたちにできることを心を込めて精一杯やっ



私は、自分が小学生の頃のお弁当を思い出しました。そのころ愛育園は貧しくて、母が一人で調理の仕事を背負いこんでいました。年長の女の子が食事作りを手伝っていました。品物もないし、手もなかったのでしょうか。私のお弁当は、錫メッキ（ブリキ）だったかアルマイトの金属製の硬く冷たい容器に、ひきわり（ひきわり麦…大麦をうすなどで粗くひいたもの）が入って、黒い色が混じったご飯が入っていました。おかずは、真ん中に梅干しがあって、上の方には小女子（小魚）の佃煮が入っていました。（私はこれが苦手だった。）

街の子どもは、卵焼きが入った、白米の美味しいお弁当だったかもしれません。篠ノ井の南のはずれの農村地帯から通う子どもにとって街の子どもたちはまぶしい存在でした。私は、他人にお弁当を見せられなくて、包み紙の新聞紙で隠して、その中に頭を突っ込んで食べていました。だから、どんなにか給食が良かったかしれません。給食だったらみんなが同じ食べ物を見せ合って食べることができましたから。（私が小学校 1 年生の時（昭和 29 年）に給食が始まりました。先生がコッペパンに、大きなジャムの塊をつけてくれたことが忘れられません。）

愛育園の子どもたちは、こんなにも楽しいお弁当を持っていくことができ、幸せですね。そのようにしてくださる、調理の先生の愛情にありがたく、心から敬意を表したのです。

心構え

園長 青谷幸治

物事がうまくいくためには「心・技・体」だけでなく「生活」をしっかりすること。「生活」をしっかり見直すことで、やる気は高まり、質の高い養育、教育につながるのです。こんなお話を聞いたことがありました。

私たちの仕事は、勉強を教える教師ではありません。部活など習い事を教える指導者でもありません。私たちは、子どもの生活をよくする、養育をする専門家です。子どもたちの「心・技・体」を磨くためには、まず「生活」からというのは自然のことであり、このお話は今の仕事に当てはまるものでした。

愛育園ではどうでしょう？子どもたちが荒れていた時代は、居室にはたくさんの穴があき、壁のクロスがはがれ、布団は万年布団。教科書や参考書、筆記用具がどこにあるのかわかりません。目はうつろで希望をもてる状況ではありませんでした。心が乱れていました。しかし現在では、朝早起きをして、お参りに参加し、たくさん朝ご飯を食べ、元気に学校に登校しています。部屋に穴があくこともなく、毎日布団はクローゼットにしまい、はきものは揃え、目標をもって何でも頑張っ取り組む子どもが増えています。学力が向上し、皆勤する児童が増えたことも目標をもって取り組むことができる環境になりました。

なぜここまで変わってきたのか？これは「生活」の中での心構えに考え方だと思います。

例えば学習を教えることは、あまりしません。大事にしていることは、時間内は会話をせず、静かに集中する力をつけること。学習中は席を立たないこと。教科書やノートは全部持ち帰ること。

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

提出物は必ず出すこと。生活ノートを書くこと。そして筆記用具が揃っているか。筆箱の中がきれいかな。鉛筆を削っているか。消しゴムが小さくなりすぎていないか。など確認して学習を開始します。この継続が習慣になり身につけています。学力が高い、低いは関係ありません。全員が必ずできることをやります。いつも子どもたちには「テストで100点取ると鉛筆を削ったり、教科書を持ち帰ったり、提出物を出したりするのとどっちなら簡単にできそう?」。当然の答えが返ってきます。その当たり前のこと続けること。この心構えを身につけることで「心・技・体」が磨かれ、子どもが大きく成長するのだと思います。成績が良ければいいのではなく、勉強するまでの準備や心構えが大事であること。そして中高生には余計に教えるのではなく、背中を押すこと。定期考査に向けて具体的な計画を一緒に立てたり、前回の結果を踏まえて次回の試験に向けての目標点数を決めたりします。

モチベーションを上げること。とても大事にしています。

少年野球でも勝つために技術を教えます。しかし円福寺愛育園少年少女野球団では、勝つことや技術の前に挨拶をする。道具を大切に。仲間と協力し合う。など人として、できなければいけないこと。誰でもやろうと思えばできることをしっかり身につけることが優先であり、勝つための心構えになっています。

何をやるにもまずは「生活」から見つめ直し、誰でもできることを当たり前でできること。その心構えを身につけ、「心・技・体」を磨き、個々の目標や夢に向かって取り組んでいくことを今後も継続させ、将来自立し社会に貢献できる人になることを願っています。

さんま焼き&おでん大会

主任保育士 石崎 早織

11月5日に園行事としておでん&さんま焼き大会を行いました。昔は園でもさんま焼き大会をやっていたと園長から話を聞いていたので、いつか子ども達とやってみたいな……。と思い今回この行事を計画しました。おでん作りはまごころ中心に調理の先生方にも手伝って頂きながら行い、さんまを焼くのはあおぞら中心にそれぞれ役割を決め準備を行いました。私はまごころの子ども達と一緒におでんの準備を行いました。大根の皮をむいたり、大量のゆでたまごの殻をむいたり、たくさんのロールキャベツを作ったりなどなど、どれをとっても子ども達に



(平成29年12月10日発行 月刊「円福」497号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

は一つ一つ新鮮で、楽しみながら準備をする事が出来ました。この日は天気も良かった為、せっかくだから外に机を出してみんなで食べよう!!ということになり、温かいおでんと、あつあつのさんまをみんなで外に出ておいしく頂きました。どこか外におでかけしているわけではありませんが、いつもと違う雰囲気食べるご飯はとてつもなくおいしく、子ども達も何度もおでんをおかわりして食べている子どももいました。自分達で作ったご飯だから格段においしかったのかもしれませんが、以前まではホーム食を通し、子ども達と食事づくりを行う機会が年に数回ありましたが、最近ではこういった機会が減ってしまっていたので、久しぶりに子ども達と楽しくご飯作りが出来て良かったです。

おでん&さんまの食事作り大会

あおぞらホーム長 富沢正樹

11月5日にみんなでおでん作りとさんまを焼いて食べました。

食堂では、女の子たちがおでんの下ごしらえをやり、中庭では男の子たちが、火を起こして、ご飯を炊くために火を起こしたり、さんまを焼くためにバーベキューコンロや七輪に炭を起こしたりしました。

男の子たちは、火を起こしたり、丁度いい火の加減を保ったり、楽しそうに作業していました。普段、バーベキューでお肉を焼く事は度々ありましたが、お米や魚を焼くのは滅多に無い経験で、コツをつかもうと真剣な顔つきで取り組んでいました。お米の方は大きなお釜で炊きましたが、この加減がとっても難しく、蓋から水が吹きこぼれてきたので、「もういいんじゃない?」と蓋を取ってみると、重湯の様な状態で「うわーやばい、まだだ、早く蓋して!」と大騒ぎ。一度蓋を取ってしまうとうまくいかないらしく、その後も炊き続けてみたのですが、結局、柔らかめのご飯となるのが精一杯でした。ですが、外でやっていたのが功を奏して、オニギリにして、しばらく時間が経つと程よい硬さが変わって、とってもおいしいお米が炊けました。こんな経験も子ども達にとっては楽しい事になった様で「またやりたい!」という子が大勢いました。さんま焼きの方はというと、最初は1匹ずつ慎重に焼いて



いましたが、コツを掴んでからは8匹同時に焼いたりして、中高生の男の子は自分達が食べるのもそっちのけで、みんなの為に、最後の1匹まで焼いてくれました。

久しぶりのご飯作りでみんなとても楽しそうでした。特に中高生は、準備だけでなく、後片付け

も最後までやってくれている姿があり、普段の生活がこういう時に活きているなあと感じさせてくれました。また色んな行事を計画していきたいです。

さんま&おでん大会

栄養士兼調理員 原 未華

11月5日にさんま&おでん大会をしました。「秋といえば食欲の秋」という言葉の通り食べ物が一番おいしく感じる季節です。おでんの具は、大根、こんにゃく、結びしらたき、はんぺん、竹輪、たこボール、牛すじ、餅巾着、卵、シャウエッセン、ロールキャベツです。おでんは調理場で煮て、さんまは外で焼いてもらいました。



男の子たちは、外で火起こしの準備、テーブルや椅子のセッティングをしてもらい、女の子たちには、おでんの材料を切ってもらったり、ロールキャベツを包んだり、おにぎりを作ってくれました。子どもたち全員、手際が良く器用で、丁寧に1つ1つ作っていて短時間で仕上げる事が出来ました。幼児、小学生から高校生まで全員が協力して楽しく準備することが出来ました。特に高校生は何を言われなくても自ら率先して動いていて配膳を手伝ってくれたり、「何かやることありますか？」と積極的に声をかけてくれたので、助かりました。



当日は天気にも恵まれ、11月ということもあり少し寒かったのですが、全員、外で食べました。おでんは具全部に味が染みているので、外の寒さを忘れるくらい熱々のおでんで身体も心も温まりました。さんまは、中高男子と先生方中心で焼いてもらいきれいな焦げ目が付いていて、見るだけでも秋を感じました。愛育園では、さんま丸ごと一匹を献立に出すことがなかったので、子どもたちにとっても食育の一環としても良い機会でした。子どもたちは、きれいに上手にさんまを味わっていました。大勢でしかも外で食べ

る食事はよりいっそうおいしく感じました。おでんのおかわりもたくさん来てくれて、心もお腹も大満足になったことと思います。

また、作っているときも食べているときも子どもたちの笑顔がたくさん見られたので、行事などで少しでも多く子どもたちと関わることが出来ると本当に楽しいです。普段の関わりが少ない分、行事を一緒に参加させて頂いている喜びも日々感じています。



秋の味覚をおいしく、楽しく感じられた一日でした。

おでん&さんま大会 児童感想

今日はおでんさんま大会をしました。はじめにおでんの準備をしました。私は大根皮をむきました。大根の皮は少し滑るのでむくのが大変でした。そして調理の先生達はこんなにたくさん作ってるんだなと思いました。出来上がったおでんはとてもおいしくてたまりませんでした。特に一番おいしかったのは餅きんちゃくです。自分で皮をむいた大根もおしかったです。またおでんさんま大会をやりたいです。楽しかったです。

(小4A・Y)

11月5日はおでんさんま焼き大会がありました。おでんをお手伝いをしました。男の子たちは火起こしをしてくれました。私はロールキャベツを作りました。パスタの棒にロールキャベツをさします。他にも終わってから茹で卵の殻もむきました。塩おむすびも作りました。おでんもさんまもどっちもおしかったです。またやりたいです。

(小5M・M)

通明小学校校内音楽会

あおぞらホーム 近藤誠志郎

先日11月2日、多くの園児が通っている通明小学校で校内音楽会がありました。この日のためにあおぞらホームの男の子たちも練習してきたと言っており、私も楽しみにしておりました。まずは2年生のS君についてですが、歌うことが普段からとっても好きな子なのですが少し恥ずかしがりやであり、発表の時に力を発揮できるか心配でした。しかし、そんな私の心配もなんのその、S君はとっても大きな口を開け一生懸命に歌っていてその姿は頼もしいものでした。4年生のR君は特に音楽会への思い強く、園に帰ってきて学校から借りてきたCDをいつも聴いていました。実際

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

R君のクラスの発表を聞いていても、本人の声が私にもわかるくらい大きな声で楽しそうに歌っていました。同じく4年生のY君は普段から活発な性格で、大勢のお客さんの前での発表となった今回の音楽会でも物怖じすることなく、堂々と歌ったり、楽器を演奏していました。学校でも変わらない姿が見られて良かったです。6年生のH君のクラスは最高学年と言う事もあり、合唱の質が高く、見事な発表でした。H君もその中の一員として、いつもはあまり見せない真剣な表情で歌っており、最後の音楽会をやりきったという印象を持ちました。私はビデオを撮影していましたが、レンズを通してみる子ども達の表情がみんなとても良く、堂々としたもので、長時間の音楽会でしたがあっという間に過ぎた感覚でした。子ども達の帰ってきた時の表情は清々しく、音楽会が子ども達にとって良い思い出になったことと思います。

『通明小校内音楽会』

竹内早季

当日まで園では毎日リコーダー、ピアノの音が響いていました。音楽会練習の宿題があり、同時に3人が楽器を吹くと聞いてあげたいけれど誰が何を演奏しているか分からず耳を澄ませる日々でした。どの子も音楽会に向けて一生懸命練習していました。最初は上手くリズムが取れず後ろ向きだった子もいましたが、毎日続けることでできるようになり最後の方は自分から「先生聴いててね！」と聴かせてくれました。そんな子ども達を見てきたので、当日がとても楽しみでした。

当日の演奏はたくさんのお客さんの前でみんな堂々と発表していて昨年からの成長を感じました。運動会で恥ずかしくてダンスができなかったS君が一生懸命ピアノを吹いたり歌ったりしている姿を見て嬉しくなりました。5年生のMさんはやったことのない楽器に挑戦していました。6年生も最後の音楽会として2曲の合唱曲を立派に歌い上げていました。それぞれが自分の頑張りたいことを一生懸命取り組んで本番を迎えられて良い思い出になったのではないかと思います。また来年成長した姿を見るのが楽しみです。

通明小学校 校内音楽会

まごころホーム 保育士兼指導員 加藤ゆかり

先日、11月2日に通明小学校校内音楽会がありました。この日の為に、子ども達は一生懸命練習し、毎日ホームは楽器の音や歌声で賑やかでした。子ども達が頑張っていた姿を毎日見ていたので、当日楽しみに学校に向かいました。

3年生は、今年初めてリコーダーに挑戦しました。リコーダーは指の位置を覚えたり、低い音(ドやレなど)をきれいに吹くのが難しく、MちゃんとTちゃんは苦戦していました。毎日練習を重ねることで、リコーダー練習を始めた頃とは見違える程上達し、本番もとてもきれいな音色を響かせていました。

4年生のAちゃんは、合唱団に所属しており、毎日放課後練習に参加していました。合唱団の練習の様子は園では分からず、どんな発表かととても楽しみにして行きました。本番は、さすが合唱

(平成29年12月10日発行 月刊「円福」497号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

団、小学生とは思えないクオリティに驚き、感動しました。子ども達の力はすごいな、と改めて感じさせられました。

6年生は最後の音楽会ということで、合唱曲2曲の発表でした。最上級生ともなると、立ち振る舞いが堂々としており、歌声も迫力がありました。最後の音楽会にふさわしい素晴らしい発表だったと思います。

子ども達の頑張っている姿を見ることが出来て、良かったな、と思いました。これからも、学校でも園でも頑張れる子ども達でいてほしいと思います。

通明小学校内音楽会 児童感想(あおぞら)

今日は、音楽会がありました。最初にウィッシュを歌いました。きれいな声を出せて良かったです。

6番目にぼくの出番の時、ステージに行ったら、詰めすぎないで広くして、ならべられて、良かったです。歌を歌う時、緊張したけど、ちゃんと歌えて良かったです。合奏の時、間違えそうになったけど、間違えないで弾けて良かったです。4年生と5年生の歌声がきれいですごかったです。3年生のリコーダーも良かったです。

(小2 Y.S)

学校で音楽会がありました。4年2組と4組は、ロッキーを演奏しました。4年生全体では、ハックルベリーを歌いました。約3週間練習しました。ロッキーは、みんなで合わせてやるのは難しかったけど、たくさん練習して、できるようになって嬉しかったです。ロッキーは第1部の2番目だったので、とても緊張しました。ほとんど間違えないで出来て良かったです。

ハックルベリーは後ろの方の場所から、大きな声を出せて良かったです。

先生達の発表もすごくて、ピカチュウ役は担任先生の早川先生で、とてもおもしろかったです。来年はもっと頑張りたいです。

(小4 Y.Y)

最後の音楽会

11月3日に音楽会がありました。私は、16番の「エスペランサ」と、一番最後の「地球星歌」と、「ふるさと」を歌いました。どれも上手に歌えたのでよかったです。大きな声で歌えたのでよかったです。歌声がそろっていたし、綺麗にハモっていて、すごく綺麗に歌えたのでよかったです。私にとって最後の音楽会だったので、綺麗な合唱になったと思うのでとてもよかったです。(小6 A.O.)

今年で最後の音楽会だったので、私は精一杯声を出しました。元々歌を歌うことがあまり好きではありませんが、今年も昨年のように音楽会で大きな拍手をもらいたいと思い、頑張りました。私が特に力を入れた曲は「エスペランサ」です。この曲は合同音楽会では歌わなかった曲なので、音楽会に向けて頑張って練習してきました。真ん中のハミングの所は、みんなと音がハモるように意識しました。最後の音楽会が素晴らしい音楽会になったのでよかったです。(小6 A.M.)

少年野球 豊田杯

あおぞらホーム長 富沢正樹

11 月 11 日、円福寺愛育園少年少女野球団は諏訪で行われた豊田杯に参加してきました。

これまで大会や練習試合を重ねてきて、出発前の準備や会場についてのウォーミングアップなど、だいぶスムーズに行えるようになって来ました。当日は、冷たい風が吹いていて寒い中での試合となりましたが、試合が開始されると随所にいいプレイが見られました。以前にもお伝えした事がありますが、このチームは 6 年生が 1 人、4 年生が 2 人、後は全員低学年という若いチームなので、以前は外野にボールが飛んでしまうと、ボールは外野を抜けて行って、それを 4 年生ピッチャーの Y くんが追いかけていくというようなひどい状態でした。内野ゴロでも、打球を止めれたら良い方で、ほとんどアウトは取れませんでした。

ですが、今回の試合では、センターを守る 3 年生の M ちゃんが飛んできた全ての打球を後ろに逸らすことなくしっかりグローブに納め、レフトを守る弟の S くんはセンターまで全力で追いかけてカバーに入るなどの姿があり、非常に成長を感じました。ファーストは 4 年生の R くんが守りましたが、今までせつかくアウトにできる内野ゴロでも後ろに逸らしてしまっていたのですが、今回は投げられたボールをしっかりキャッチする事が出来ていました。ファーストに飛んできたファールフライもキャッチしてアウトを取る事が出来ました。とても素晴らしかったです。

試合は 2 試合行いましたが、どちらの試合も大差で負けてしまったものの、選手自身が自分たちのレベルアップを感じている様子が表情に表れておりとても良かったです。

私は野球を通して技術的な事だけでなく、礼儀や物の扱い、そして何より仲間を思いやる気持ちを育てていきたいと思っています。勝ち負けはどうでもいいというわけで無く、勝つチームはきっとそういう部分が長けていると思いますし、その姿勢は、きっと普段の生活や今後役に立つと思っているからです。

低学年主体のチームだから負けて当たり前とは思っていません。どうしたら勝てるか、そんな事を一人一人が、それぞれに考えて実行してみる。そんな雰囲気ของทีม作りをしていきたいと思えます。

豊田レッドキングスの運営事務局の方、関係者、保護者の皆さん、会場準備や、温かいスープの振る舞いなど、大変お世話になりました。ありがとうございます。

七五三参り

まごころ保育士 渡邊梓

11 月 19 日に千曲市にある武水別神社（八幡神社）に七五三のお参りに行きました。5 歳まで健康に過ごすことが出来た感謝と、これからも元気にたくましく、心優しい人に育ちますようにと一緒にお参りをしました。

煌季くんは愛育園の中では一番年下なので、園の中ではとても甘えん坊です。しかし、今年の 4

月から園内保育ではなく、幼稚園に通うようになり、同年のお友達がたくさんいる環境で、遊んだり、時にはケンカをしたりしながら日々たくさんのお友達の事を学び、一回りも二回りもたくましく成長したように感じます。

先日も幼稚園の個別懇談会がありましたが、担任の先生から、「発表会の劇の練習では、らいちゃんが率先して練習を盛り上げてくれます。リーダーシップがあって頼もしいですし、私（担任）のお手伝いも良くしてくれるのですよ。」と話があり、すごいな、頑張っているのだなと思い、私も嬉しく感じました。幼稚園で過ごす時間も残りわずかとなってきましたが、お友達と過ごす時間を大切にしながら、さらに元気にたくましく、心優しく成長できることを願います。

